平泉の都市イメージに関する研究

岩手大学 学生員 〇高城 良太 岩手大学 正会員 南 正昭 岩手大学 学生員 鈴木 明日菜

1. はじめに

平泉町では、平成13年度に平成22年度を目標年 度とする平泉町総合計画(基本構想及び前期基本計 画)を策定し、「やすらぎと文化をおりなす千年のま ちづくり」の実現に向けて各種施策が推進されてき た。特に平成18年に策定された後期基本計画では、 平泉の文化遺産の世界遺産登録が見込まれるという ことを受け、世界遺産にふさわしいまちづくりが行 われている。

まちづくりを進める上で重要となってくるのは、 地域住民との合意形成である。よって、地域住民が 地域自治体の定めた施策に対して、どのような意識 構造をしているのかを明らかにし、計画づくりに生 かすことは重要である。

本研究では世界遺産登録を目指してまちづくりが 行われているなかで、地域住民の意識構造を明らか にし、考察を行うことを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、平泉町が平成22年5月に実施した「町 民まちづくりアンケート」の調査結果に基づき分析 を行った。

アンケート調査は、平泉に居住する20歳以上の町 民に対して行われた。配布数は1000票であり、有効 回収数は923票、有効回収率は92.3%である。個人 属性は表1の通りであり、60歳代以上が他の年齢層 と比べてやや多く、居住年数が30年以上の回答者が 多い傾向が見られた。

調査項目は平泉町の暮らしやすさや愛着度、今後 のまちづくりについてなど多岐にわたる。そのうち、 「まちの各環境に関する満足度」では、平泉の現状 を把握するためにまちの各種環境に関する 30 の項 目が設定され、5段階(満足1、やや満足2、普通3、 やや不満4、不満5)で評価されている。また、それ らの質問項目は全て平泉町後期基本計画の各種施策 と関連している。

そこで本研究では、各種施策が住民の満足度にど のような影響を与えるのかということに注目した。 アンケート調査で用いられた変数に探索的因子分析

表 1 回答者属性

属	属性項目		
性別	男性	434	
	女性	485	
年齢層	20歳代	88	
	30歳代	110	
	40歳代	119	
	50歳代	175	
	60歳代	163	
	70歳代以上	264	
家族構成	1人	44	居
	夫婦だけ	122	
	2世代	403	
	3世代	301	
	その他	38	

属	回答数		
職業	農林業	109	
	自営業	85	
	会社員	318	
	パート	81	
	家事専業	116	
	学生	5	
	無職	185	
	その他	11	
居住年数	1年未満	2	
	1~5年未満	18	
	5~10年未満	33	
	10~20年未満	89	
	20~30年未満	151	
	30年以上	622	

表 2 平泉町後期基本計画 施策体系

		_			
	[1	1 さわやか・平泉 〜美しい自然のまち〜	自然環境・景観の保全	自然環境 自然景観
		X00 E/M07013		保険	
	Н			(1)保険・医療の充実	地域医療
				地域福祉	
		2 安心・平泉		高齢者福祉	
	Н		~健やかな福祉のまち~	(2)福祉の充実	児童福祉
	Н				障害者(児)福祉
	Н			(3)社会保障の充実	国民健康保険
	Н				介護保険
	Н			(1)生涯学習の推進	生涯学習
	Н				学校教育
	Н				文化財
	Ш			(2)文化・スポーツの振興	文化・芸術
基	П	後 期	3 いきいき・平泉	(2)人にスポープの派突	スポーツ・レクリエーション
基本構想		後期基本計	~学び楽しむ文化のまち~		世界遺産
想		計			青年活動
	П	画		(3)交流の促進	男女共同参画
	Н			(- / 24/10-17) C/L	人権尊重
				国際交流・地域間交流	
	Н				景観
	Н				住宅・住宅地
や	ф 			公園·緑地·広場	
9	П	小	4 うるおい・平泉 〜快適な生活環境のまち〜	(1)生活環境の整備	河川
ぎょ	Н	ζ			上水道
文	Н	ŧ			下水道
やすらぎと文化おりなす	П	3		(2)生活安全の確保	環境衛生・保全 消防・救急
りな	Н	الإ			防災
Ŧ	П	光			交通安全
千	Н	ŧ			地域安全
年の	П	うづ			消費生活
千年のまちづくり	Н	小さくともキラリと光るまちづくり		(1)生産振興	農林業
Ş	Н	1			工業
b	Н		5 にぎわい・平泉 〜活気ある産業のまち〜		商業
	Н			(2)商業・観光の振興	観光
	Н			(3)雇用の創出	雇用
	Н			(1)地域基盤の整備	市街地
					道路網
		6 ひろがり・平泉 ~行き交う便利なまち~		公共交通	
			(2)地域情報網の整備	地域情報網	
	П			(3)エネルギー対策	地域エネルギー
			7 のびのび・平泉 〜共に創るまち〜	(1)町民参画の促進	町民参画·協働
					地域活動
	П				行政畝意
		X1C93000.3	(2)行財政の健全化	財政運営	
1	ıl	- 1		i	広域行政

を行い、潜在的な因子を抽出し、それらについて考 察を行っていく。

キーワード:都市イメージ、まちづくり、平泉

連絡先:岩手大学工学部 岩手県盛岡市上田4丁目3-5 電話: 019-621-6453 FAX:019-621-6460

3. 分析結果

(1) 分析結果

表 2 統計量と因子パターン

項目内容	因子				
X11.71	1	2	3	4	5
企業誘致などの工業振興	. 805	125	. 015	005	070
商店街づくりなどの商業振興	. 765	066	073	. 037	. 005
就職支援や雇用対策	. 712	. 083	. 115	021	190
魅力ある観光振興	. 453	. 108	165	. 074	. 351
活力ある農林業の振興	. 435	. 014	. 011	. 024	. 133
公共交通機関の利便性	. 424	. 157	. 057	051	019
施設や道路のバリアフリー化	. 349	. 298	. 091	. 018	060
地域の生活道路の整備	. 323	. 222	011	079	. 158
地震水害などの防災対策	008	. 728	117	. 168	070
消防や救急体制の整備	064	. 686	084	. 133	. 021
犯罪や交通などの安全対策	. 107	. 567	008	. 012	. 005
介護福祉医療体系の充実	. 041	. 455	. 326	131	. 014
障がい者の生活環境の整備	. 093	. 348	. 298	104	. 033
健康診断や予防対策	216	. 335	. 217	. 150	. 153
小中学校の教育環境の整備	061	. 009	. 620	. 068	. 058
魅力ある教育の推進	. 167	242	. 599	. 180	. 028
保育の充実や子育て環境の整備	062	. 278	. 588	078	007
生涯学習環境の整備	. 105	165	. 551	. 175	. 137
子育て支援	. 004	. 301	. 539	081	022
男女共同参画社会への取り組み	042	. 073	. 095	. 614	115
国際交流や都市間交流の推進	014	. 074	. 066	. 608	058
文化芸術活動の振興	. 027	. 058	104	. 514	. 153
スポーツを楽しむ環境の整備	. 091	. 086	. 103	. 461	061
文化財保護と文化遺産の活用	007	022	. 076	034	. 673
自然環境や自然景観の保全	067	012	. 074	117	. 655
景観に配慮したまちづくり	035	. 030	. 031	. 090	. 564
因子相関行列	1	2	3	4	5
1	1. 000	. 466	. 534	. 500	. 434
2		1.000	. 610	. 412	. 510
3			1.000	. 439	. 528
4				1.000	. 573
5					1.000

まず、まちの各環境に関する満足度29項目の平均値、標準偏差を算出した。天井効果やフロア効果が見られる項目はなかったので、そのまま主因子法による因子分析を行った。固有値の変化(8.652、1.993、1.578、1.286、1.185、1.049、…)と因子の解釈可能性を考慮すると、5因子構造が妥当であると考えられた。そこで再度5因子を仮定して主因子法・Promax回転による因子分析を行った。その結果、十分な因子負荷量を示さなかった3項目を分析から除外し、残りの26項目に対して再度主因子法・Promax回転による因子分析を行った。Promax回転後の最終的な因子パターンと因子相関を表2に示す。なお、回転前の5因子で26項目の全分散を説明する割合は53.1%であった。

第1因子は8項目で構成されており、工業振興や商業 振興など、産業に関する項目が高い負荷量を示してい た。そこで「産業因子」と命名した。

第2因子は6項目で構成されており、防災対策や消防・救急体制の整備など、生活安全に関する項目が高い負荷量を示していた。そこで「安全因子」と命名した。

第3因子は5項目で構成されており、教育環境の整備

や魅力ある教育の推進など、教育に関する項目が高い負荷量を示していた。そこで「教育因子」と命名した。

第4因子は4項目で構成されており、男女共同参画社会への取り組みや国際交流など、交流に関する項目が高い負荷量を示していた。そこで「交流因子」と命名した。

第5因子は3項目で構成されており、文化財保護や文 化遺産の活用、自然環境や自然景観の保全など、世界 遺産登録に直接的に関連すると考えられる項目が高 い負荷量を示していた。そこで「世界遺産因子」と命 名した。

(2) 考察

第1因子から第4因子までは、図1の平泉町後期基本計画の施策とほぼ一致するという結果が出た。第1因子は「5 にぎわい・平泉」と「6 ひろがり・平泉」、第2因子は「4 うるおい・平泉」((2)生活安全の確保)と「2 あんしん・平泉」の医療・福祉に関する施策である。この「2 あんしん・平泉」の施策は第3因子にも存在しており、おもに子育てに関する施策が教育関係の施策(「3 いきいき平泉の(1)生涯学習の推進」)と一緒になって第3因子を構成している。また、「3 いきいき・平泉」のうち、第3因子に含まれなかった他の施策は、第4因子として抽出された

第5因子の項目だけは施策体系においてそれぞれ異なる分野に属している。自然環境や自然景観の保全は「1 さわやか・平泉」の自然環境・景観の保全、文化財保護と文化遺産の活用は「3 いきいき・平泉」の世界遺産、景観に配慮したまちづくりは「4 うるおい・平泉」である。ただし、どの項目も世界遺産登録に結びつく施策といえ、住民の意識構造の中に世界遺産登録に結びつく施策といえ、住民の意識構造の中に世界遺産登録に向けた視点が存在する様子が見て取られる結果が得られた。

また、第1因子の項目である魅力ある観光振興は、 第5因子にも比較的高い負荷量を示している。地域住 民は観光振興を産業に関する施策としてだけではな く、世界遺産登録とも結び付けて捉えていることが推 察された。

4. 今後の課題

今回は住民の平泉に対する意識構造の中に、世界遺産に関する視点が存在することが明らかになった。今後は共分散構造分析を用いて潜在変数間の関係性を 把握し、各種施策が住民の満足度に与える影響を検討していきたい。